

タイ人日本語学習者の文末「よ」の聞き取り

Promjit Niyomvanich

1. はじめに

文末「よ」は日本語において使用頻度が高く、音調により正反対の意味を表すだけでなく、音調の聞き取りも難しく、日本語学習者にとって日本語母語話者の発話意図を正確に理解できない可能性を生じる重要な一語である。例えば、外国人が「いいですか？」と尋ねた時、日本人の「いいよ」の発話音調によって、先方が承諾や賛成なのか不愉快や断りの感情を表しているのかを、日本人との日常会話のみならず商談等の重要確認事項において、外国人が理解することは非常に重要であり、その後の信頼関係や取引に影響を及ぼしかねない。

言い換えれば、曖昧な言語表現を美德とする日本語文化において文末「よ」の音調は日本語学習者が相手の感情の意図を理解できる明確な手段の一つとも考えられるのではないだろうか。

従って、日本語母語話者の発話の意図を正確に理解するために、従来よく研究されてきた単語アクセントだけではなく、文末「よ」の音調に関しても学習者に正確に指導する必要性があるのではないだろうか。しかしその指導法は確立されていない。

筆者は日本語の文末「よ」の拍内における高低の変化が、音節中で高低が変化する声調言語の特徴と類似している点に着目した。そこで先ず声調言語を母語とするタイ人日本語学習者を対象者として調査することにした。声調言語を母語とする学習者の母語の干渉が聞き取りにおいて重要な影響を及ぼしている可能性があるかと推測したからである。本稿は文末「よ」の聞き取りをめぐる、指導法開発のための一基礎研究である。

2. 先行研究

文末「よ」の音調についての研究はまだ少ない。その一つとして、轟木(1993)では、共通語・標準語における文末音調と機能の対応関係をさぐる糸口として、東京語における文末の助詞「よ」をとりあげ、音調と機能との対応関係について内省に基づいて考察を行い、次の調査を行った。東京方言話者の状況設定のもとで読んだ日本語文「おもいよ」「やるよ」「ももみたいよ」を別の東京方言話者である中学生、高校生、社会人に聞かせ、同じ状況設定のもとでどちらの音調がふさわしいか選ばせる。また、いくつかの音調で録音した「いいよ」も聞かせ、承諾しているように聞こえるか、断っているように聞こえるかを判断させた。

その結果は以下の通りである。「よ」が聞き手の理解が話し手の理解と一致していないという判断のもとに使われるという解釈は、「よ」がどの音調をとってもおそらく当てはまるものである。しかし、聞き手に対する呼びかけであるとか、情報の伝達などが中心であって、聞き手と話し手

の判断や理解の不一致という話し手の判断や表明以外の機能が「よ」に託されている場合、「よ」の音調は一つに決まっている傾向があり、聞き手への呼びかけや伝達には上昇調が、話し手の感情表明や主観的な述べ立てには低くつく平坦な音調が用いられることが明らかになった。

しかし、先行研究者が東京方言話者の「よ」の音調の使い分け方を理解していても、実際に日本語学習者を対象に調査を行わないと、学習者にどのような問題が生じているのかを判断できないのではないのだろうか。

日本語において文末「よ」の音調の違いは対話者間のコミュニケーションに混乱を生じさせる可能性がある。そこで、本稿では日本語指導における文末「よ」の日本語学習者への適切な指導法を開発する必要性を提起する。

3. 目的

本研究は次の2つを目的とする。

3.1 声調言語を母語とするタイ人日本語学習者にとって、文末「よ」を含む文の聞き取りについてどのような問題が生じるのかを明らかにし、文末「よ」の音調と声調の接点の有無を考察する。

3.2 その問題を解決するためにどのような指導法が適切かを考察する。

4. 方法

4.1 調査に使用したアンケートの作成と調査方法

4.1.1 調査の材料は、以下のように感情的意味に関わる文末「よ」を含む文と、命題的意味に関わる文末「よ」を含む文に分けた。なお、感情的意味とは、音調の変化によって感情を表す発話の意味が変わる（例、不愉快に思っているか思っていないか）ものである。命題的意味とは、「よ」の音調の変化によって「賛成している」もしくは「断っている」という意図を表すような、その発話自体によって持つ意味が変わるものである。

感情的意味に関わる文末「よ」を含む文

第一発話者：「お金ある？」

第二発話者：「あるよ。」

第一発話者：「分かった？」

第二発話者：「分かったよ。」

第一発話者：「大丈夫？」

第二発話者：「大丈夫だよ。」

命題的意味に関わる文末「よ」を含む文

第一発話者：「今晚遊びに行こう？」

第二発話者：「いいよ。」

4.1.2 上記の4.1.1の文末「よ」を含む文について、第二発話が「いいよ」の場合は上昇（承諾）と下

降（断り）、「いいよ」以外の場合は上昇、平坦、下降のそれぞれの音調を指定し、日本語教師で

ある東京方言話者男女各 1 名の発話を録音した。

4.1.3 別の東京方言話者 3 名に聞かせ、「第一発話が、同じ意味に聞こえたか」「第二発話がどのような

気持ちで発話されたか」の質問に答えてもらった。前者は、第一発話が共通の会話を相互比較するためであり、後者は、アンケートの選択肢作成の参考にするためである。

4.1.4 以上の 4.1.1、4.1.2、4.1.3 をふまえ、22 問から成るアンケートを作成した。アンケートには、感情的意味に関わる文末「よ」を含む文に対し「A. 不愉快だと感じている／B. 不愉快だとは感じていない」と、命題的意味に関わる文末「よ」を含む文に対し「A. 快く賛成している／B. 断っている」といった 2 択式の回答をつけ、分からない場合は「分からない」と書き込めるようにした。その際、答えの文末「よ」の音調のみが異なる文の連続配置を避けた。

4.1.5 アンケートは日本語版を日本語母語話者（東京方言話者）41 名を対象に実施し、タイ人に対してはタイ語版を使用し、在日タイ人日本語学習者 30 名と在泰タイ人日本語学習者 31 名に分け、自然習得との関係について考察した（参考資料参照）。

4.2 調査結果の集計方法

4.2.1 設問の回答に対し、「タイ人日本語学習者の聞き取りに関して、日本語母語話者とは差がある」という仮説を立て、測定するために一問ずつタイ人日本語学習者と日本語母語話者の回答に分けて、2 乗クロス表に入れて換算する。

4.2.2 また、タイ人日本語学習者の文末「よ」の聞き取りが、自然習得に関わっているかを考察するために、 χ^2 検定で、日本語母語話者と在日タイ人日本語学習者の回答に有意差が見られる設問と、日本語母語話者と在泰タイ人日本語学習者の回答に有意差が見られる設問を比較する。

4.2.3 なお、タイ人日本語学習者と日本語母語話者の「わからない」という回答の質に差が生じる可能性があると考えられるので、「わからない」という従属変数の条件を除外し、残りの設問のみ換算する。つまり、設問一問ずつに「わからない」と答えたタイ人日本語学習者と日本語母語話者の数を計算せず、残りの回答者数のみクロス表に入れて換算するということである。

4.2.4 「在日タイ人日本語学習者の方が在泰タイ人日本語学習者より、日本語母語話者の回答との差が小さい」という仮説を立て、測定するために学習場所は日本とタイに分け、上記の 1) と同じ方法を用い、クロス表を完成させる。

4.2.5 有意差が見られる設問のうち、どんな文末「よ」の音調パターンがあるかを判断する。

4.2.6 タイ人日本語学習者の聞き取りは、タイ語の声調に影響されているのかを考察するため、調査に使用した文末「よ」の音調をタイ語の声調にあてはめる。

4.3 調査の結果

表1 χ^2 検定で有意差が見られるアンケートの設問数

	全設問数	J&T	J&Tj	J&Tt	Tj&Tt
上昇	8	2(25%)	1(12.5%)	2(25%)	1(12.5%)
平坦	6	3(50%)	3(50%)	2(33.3%)	1(16.7%)
下降	8	7(87.5%)	6(75%)	7(87.5%)	3(37.5%)
合計	22	12(54.6%)	10(45.5%)	11(50%)	5(22.7%)

J=東京方言話者、T=タイ人日本語学習者（在日と在泰タイ人日本語学習者）

Tj=在日タイ人日本語学習者、Tt=在泰タイ人日本語学習者

<以下の結果 4.3.1～4.3.4 は上記の表1の説明である>

- 4.3.1 東京方言話者とタイ人日本語学習者（J&T）の回答に有意差が見られるのは、全設問22問中12問で、54.6%である。そのうち、下降音調では8問中7問で、87.5%、平坦音調では6問中3問で50%であった。それに対して、上昇音調では8問中2問で25%しか有意差が見られなかった。
- 4.3.2 東京方言話者と在日タイ人日本語学習者（J&Tj）の回答に有意差が見られるのは、全設問22問中10問で、45.5%である。そのうち、下降音調では8問中6問で、75%、平坦音調では6問中3問で50%であった。それに対して、上昇音調では8問中1問で12.5%しか有意差が見られなかった。
- 4.3.3 東京方言話者と在泰タイ人日本語学習者（J&Tt）の回答に有意差が見られるのは、全設問22問中11問で、50%である。そのうち、下降音調では8問中7問で、87.5%、平坦音調では6問中2問で33.3%であった。それに対して、上昇音調では8問中2問で25%しか有意差が見られなかった。
- 4.3.4 在日タイ人日本語学習者と在泰タイ人日本語学習者（Tj&Tt）の回答に有意差が見られるのは、全設問22問中5問で、22.7%である。そのうち、下降音調では8問中3問で、37.5%、平坦音調では6問中1問で16.7%であった。それに対して、上昇音調では8問中1問で、12.5%しか有意差が見られなかった。

表2 聞き取り調査の結果

J=東京方言話者 Tj=在日タイ人日本語学習者 Tt=在泰タイ人日本語学習者

タイ語の声調：1声＝「平声」、2声＝「低声」、3声＝「下声」

4声＝「高声」、5声＝「上声」

会話の番号は聞き取り調査に使われたMDの順序通りである。

聞かせる会話と アンケートの選択肢	声 調	J	Tj	Tt	J&Tj	J&Tt	Tj&Tt
3. 女：お金ある。男：あるよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	5	3 38	2 27	4 26	0.005	0.706	0.669
12. 女：お金ある。男：あるよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	23 10	8 22	10 21	11.642*	8.970*	0.229
19. 女：お金ある。男：あるよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	27 10	9 20	5 22	11.533*	18.515*	1.168
16. 男：お金ある。女：あるよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	4	2 36	3 27	4 26	0.552	1.357	0.162
1. 男：お金ある。女：あるよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	18 20	11 19	10 17	0.785	0.687	0.001
6. 男：お金ある。女：あるよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	25 13	8 20	6 24	8.932*	14.170*	0.581
14. 女：分かった。男：分かったよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	5	1 37	2 28	4 27	0.647	2.680	0.669
4. 女：分かった。男：分かったよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	20 19	27 3	15 15	11.704*	0.011	11.429*

聞かせる会話と アンケートの選択肢	声 調	J	Tj	Tt	J&Tj	J&Tt	Tj&Tt
9. 女：分かった。男：分かったよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	37 2	22 8	15 15	6.348*	18.388*	3.455
22. 男：分かった。女：分かったよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	4	1 39	1 29	8 22	0.043	8.936*	6.405*
2. 男：分かった。女：分かったよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	16 24	16 14	12 19	1.228	0.012	1.313
18. 男：分かった。女：分かったよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	25 13	18 11	18 11	0.099	0.099	0.000
13. 女：大丈夫。男：大丈夫だよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	5	0 41	8 22	5 25	12.321*	7.351*	0.884
21. 女：大丈夫。男：大丈夫だよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	5 32	16 11	17 14	14.817*	13.162*	0.108
10. 女：大丈夫。男：大丈夫だよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	23 14	17 12	6 24	0.085	11.997*	9.247*
7. 男：大丈夫。女：大丈夫だよ。↗ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	4	2 39	3 25	5 24	0.843	2.885	0.503
5. 男：大丈夫。女：大丈夫だよ。→ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	8 31	8 21	9 21	0.462	0.822	0.042

聞かせる会話と アンケートの選択肢	声 調	J	Tj	Tt	J&Tj	J&Tt	Tj&Tt
17. 男：大丈夫。女：大丈夫だよ。↘ A. 不愉快だと感じている。 B. 不愉快だとは感じていない。	2	6 31	26 4	30 1	32.957*	43.938*	2.070
20. 女：今晚遊びに行こう。男：いいよ。↗ A. 快く賛成している。 B. 断っている。	5	39 1	29 0	29 1	0.736	0.043	0.983
15. 女：今晚遊びに行こう。男：いいよ。↘ A. 快く賛成している。 B. 断っている。	2	0 41	9 19	18 9	15.155*	37.173*	6.555*
8. 男：今晚遊びに行こう。女：いいよ。↗ A. 快く賛成している。 B. 断っている。	4	37 2	26 3	28 3	0.664	0.539	0.007
11. 男：今晚遊びに行こう。女：いいよ。↘ A. 快く賛成している。 B. 断っている。	2	0 39	12 15	21 8	21.185*	40.860*	4.519*

「*」は χ^2 検定で“有意差が有り”という意味を表す。

(有意水準=5% 自由度=1 臨界値=3.84)

<以下の結果 4.3.5～4.3.11 は上記の表 2 の説明であり、設問の順序は表 2 の通りである>

4.3.5 調査に使われた文末「よ」の音調をタイ語の声調にあてはめると、上昇音調は 4 声「高声」(4 問)と 5 声「上声」(4 問)にあてはめられ、平坦と下降音調のすべては 2 声「低声」(14 問)にあてはめられる。

4.3.6 設問 11 と 15 は断りの「いいよ」であり、東京方言話者と在日タイ人日本語学習者 (J&Tj) も、東京方言話者と在泰タイ人日本語学習者 (J&Tt) も、在日と在泰タイ人日本語学習者 (Tj&Tt) の回答にも有意差が見られた。

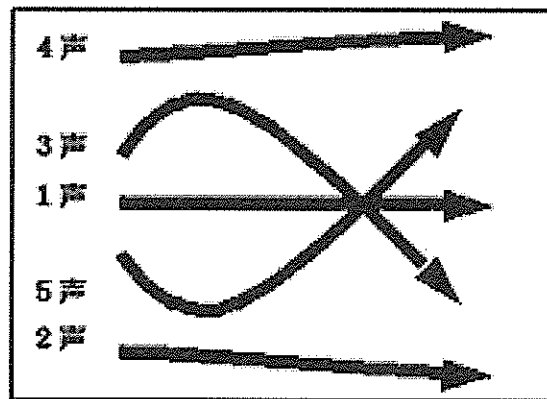
4.3.7 東京方言話者 (J) の回答にばらつきが見られるのは、感情的意味に関わる設問 12、19、1、6、4、2、18、10 のみであって、命題的意味に関わる設問は全くなかった。そのうち、上昇音調はなく、平坦と下降音調はそれぞれ 4 問ずつであった。なお、ここで言うばらつきとは、

筆者の判断で選択肢（A）と選択肢（B）の回答者数の差が多く見られるほどではないことを意味する。

- 4.3.8 平坦と下降音調の「分かったよ」と「大丈夫だよ」の設問のうち、設問 4、9、2、18、21、10 には、タイ人日本語学習者の回答にばらつきがあり、設問 4、9、21、10、17 には、東京方言話者との有意差が見られた。そして、設問 4、10 には、タイ人同士でも有意差が見られた。
- 4.3.9 感情的意味に関わる設問のうち、すべての上昇音調の設問では、東京方言話者の回答が「不愉快だとは思っていない」の方が、「不愉快だと感じている」という回答より圧倒的に多い。
- 4.3.10 有意差が見られる設問のうち、在日タイ人日本語学習者の回答の方が在泰タイ人日本語学習者より東京方言話者の回答に近い設問 19、6、9、17、15、11 と、在日タイ人日本語学習者は東京方言話者との回答に有意差が見られないが、在泰タイ人日本語学習者と東京方言話者の回答に有意差が見られる設問 22、10 があった。
- 4.3.11 これに対して、設問 12、4、13、21 は在泰タイ人日本語学習者の回答の方が在日タイ人日本語学習者より東京方言話者の回答に近かった。

4. 4 聞き取り調査の考察

- 4.4.1 表 1 と結果 4.3.1、4.3.2、4.3.3、4.3.4 で分かるように、東京方言話者とタイ人日本語学習者の回答に有意差が多く見られるのは、平坦と下降音調であった。そのため、タイ人日本語学習者は東京方言話者と異なる基準で、特に平坦と下降音調の「よ」を含む文を解釈していると考えられる。このことから、タイ人日本語学習者は文末「よ」の平坦と下降音調を含む文を聞いて東京方言話者と違う解釈をし、誤解を招くようなことが起こる可能性があると考えられる。
- 4.4.2 上記の考察 4.4.1 より、平坦と下降音調に有意差が多く見られることに対しては、次のような理由が考えられる。タイ語は以下の図で表すように 5 つの声調がある言語で、語の一つ一つの音節の声調パターンは決まっている。上記の表 2 と結果 4.3.5 から、調査の「よ」の音調をタイ語の声調にあてはめると、上昇音調は 4 声「高声」と 5 声「上声」にあてはまり、平坦と下降音調は 2 声「低声」にしかあてはまらない。



そのため、タイ人日本語学習者が日本語の文末音調をタイ語の声調にあてはめて処理しようとする、平坦と下降音調が1つの声調にしかあてはめられないため、聞き分けられなくなる可能性があると考えられる。

4.4.3 上記の結果 4.3.6 から、命題的意味に関わる断りの「いいよ」について、タイ人日本語学習者全体は東京方言話者と違う解釈をただけではなく、在泰タイ人日本語学習者と在日タイ人日本語学習者の間でも、異なった解釈をしていることがうかがわれる。つまり、ここでは学習度の差が関与しているかもしれない。調査後の雑談で、「このアンケートの正解には『断っている』という回答がなかったでしょう？全部『いいよ』だから、みんな『賛成』になるよね。」と言ったタイ人日本語学習者もいた。このことから、タイ人日本語学習者の中には「いいよ」の文末の音調に関わらず、「いい」という語義上の意味のみで判断した被験者もいたことが推測される。従って、上記の 4.4.2 で示した音調認識の基準の違いだけが「平坦」ないし「下降音調」における有意差の原因とは断定できないと考えられる。

4.4.4 上記の結果 4.3.7 と 4.3.8 から、感情的意味に関わる設問について、話題、相手との関係、場所などによって同じ音調であっても、タイ人日本語学習者だけではなく、日本語母語話者も異なる解釈をする可能性があることがわかった。「場面設定がないとわからない」と特に MD を聞いているときに言った被験者もいた。従って、被験者の思い浮かべる場面によって、会話の意味が変わっている可能性がある。

しかし、結果 4.3.7 と 4.3.9 より、東京方言話者の回答に上昇音調では全くばらつきが見られなかったことから、文末「よ」を上昇で発話されると、場面設定が分からなくても「不愉快だと感じている」と聞こえる可能性はきわめて低いと言える。

「いいよ」のように「よ」の音調がとても重要な場合と、話題、相手との関係、場所などの方が「よ」の音調より重要である場合があると考えられる。

4.4.5 上記の結果 4.3.10 から、在日の方が在泰タイ人日本語学習者より東京方言話者の回答に近

い設問が 12 問のうち 8 問あった。これは、滞日経験の有無が聞き分ける能力と関係があるかもしれないことを示唆している。

4.4.6 これに対して、結果 4.3.11 では、在泰タイ人日本語学習者の回答の方が在日タイ人日本語学習より東京方言話者の回答に近い設問が 4 問あった。

考察 4.4.5 と 4.4.6 より、文末音調には自然習得が可能なものとそうでないものの 2 種類があることが考えられる。

5. まとめと今後の課題

本稿では、文末「よ」を材料とし、声調言語を母語とするタイ人日本語学習者と、日本語の共通語を母語とする東京方言話者を対象者として聞き取り調査を行った。

タイ語は 5 つの声調がある言語で、語の一つ一つの音節の声調パターンが決まっている。一方、日本語の文末「よ」の音調も、拍内で高低が変化する点で、声調言語が持っている一つ一つの音節の中で高低が変化する構成と類似している。このことから、タイ人日本語学習者は文末「よ」の音調の聞き取りを無意識に声調に結びつけて処理している可能性がある。調査の「よ」の音調をタイ語の声調に当てはめると、上昇音調は 4 声「高声」と 5 声「上声」に当てはまり、平坦と下降音調は 2 声「低声」にしか当てはまらない。そのため、タイ人日本語学習者が日本語の文末音調をタイ語の声調に当てはめて処理していると仮定した場合、平坦と下降音調が一つの声調にしか当てはめられないため、この二つの音調を聞き分けられないという可能性がある。

実際に、調査の結果からも平坦と下降音調の場合に東京方言話者とタイ人日本語学習者の回答に最も多く有意差が見られることが確認された。しかし、命題的意味に関する下降音調の「よ」については、タイ人被験者がこの用法を学習していなかったために、東京方言話者と異なる解釈をした例も見受けられた。それ故にこうした事例を考慮し、音調認識の基準の違いによる解釈の食い違いも考察しうる測定方法を開発する必要性も見いだした。よって、今後は学習者にまず後述の指導を徹底し、その上で文末「よ」を含む文の聞き取り調査を実施するというのも、一つの方法と思われる。さらに、声調言語を母語とする日本語学習者が、文末音調の聞き取りを母語の声調に無意識に結びつけて処理しているのかどうかをよりの確に判定するためには、タイ語母語話者以外の日本語学習者にも今回行ったものと同一の調査を実施し、その結果を比較する必要がある。もし、調査結果に差異が生じれば、両者は異なる基準で文末「よ」を含む文の聞き取りをしていると考えられ、母語の声調が日本語の文末「よ」の聞き取りに影響しているかどうかを分析できるからである。

しかしながら、調査の結果によると、東京方言話者の回答も常に一定している訳ではなかった。命題的意味に関わる「いいよ」に関しては、東京方言話者の回答は一致しており、その場合、文末「よ」の音調に加えて「いい」の高さ、強さ、長さが発話意図を伝えるのに重要な要素になっ

ていると考えられる。他方、感情的意味に関わる「あるよ」「分かったよ」「大丈夫だよ」に対する東京方言話者の回答にはばらつきが見られた。この場合には、日本語母語話者の評価には文末「よ」の音調だけではなく、話題、相手との関係、場所といった場面設定など、他の要素も関わっていると言える。

このように、文末「よ」の音調だけではなく、場面設定や発話の高さ、強さ、長さなどの要素も、発話意図を正しく伝えるために重要な要素になっているのである。このことから、たとえタイ人日本語学習者が文末「よ」の音調を正しく発音したとしても、発話意図が正しく日本語母語話者に伝わるとは言い切れない。しかるに、発話意図を正しく伝えるための文末「よ」を含む文の教授法を開発するためには、日本語学習者の文末「よ」を含む文を聞く際に日本語母語話者が発話意図を解釈する判断基準についてのさらなる調査が必要である。

以上のような本稿で見いだされた今後の課題を踏まえた上で、今回の調査結果から確実に導かれる教授法上の帰結は、次の点である。まず、命題的意味に関わる「よ」について、「いいよ」のように、音調だけで「はい」か「いいえ」が決まってしまう場合は、音調をできるだけ正しく発音できるように指導し、また、それ以外の場合に平坦ないし下降音調で発話してしまうと、意図せず不快感を相手に伝えてしまう危険があることを、学習者に十分に周知させることが不可欠であろう。タイ人日本語学習者を相手に指導する場合、タイ語の声調を利用して、次のような指示を与えれば効果的であろう。

6. 指導法

- ・ 賛成の「いいよ」を言いたいときには、2声ではなく、4声か5声で「よ」を発話する。
- ・ 断りの「いいよ」を言いたいときには、4声や5声ではなく、2声で「よ」を発話する。
- ・ それ以外の「よ」のときには、不愉快感を伝えたくなければ、4声か5声で「よ」を発話する。

なお、命題的意味に関わる「いいよ」について指導を受ければ、それに類似した「構わないよ」「結構ですよ」などにも、類推的に当てはめることができるであろう。この点も忘れずに学習者に伝えることが大切ではなかろうか。そして、音調だけでは発話意図が正しく判定ないし伝達できない文末「よ」に関しては、今後、日本語母語話者の判断基準を更に詳細に分析し、指導法に盛り込んでいく必要があるだろう。

参考文献

- 鮎澤孝子 (1991) 「イントネーションと日本語教育」、『日本語学』7-10、明治書院、98-113
- 石崎晶子 (1999) 「学習者の言語行動に対する母語話者の評価—主観的評価と客観的評価の関係—」
『第2言語としての日本語の習得研究』3、19-35
- 小河原義朗 (2001) 「外国人日本語学習者の日本語発音不安尺度作成の試み—タイ人大学生の場合

ー」『世界の日本語教育』11、39-53.

—— (2001)「日本語非母語話者の話す日本語に対する日本人の評価意識—日本語教育における言語意識」『日本語学』20-7、明治書院、64-73

河野俊之 (1992)「日本語母語話者と外国人日本語学習者の文末音調の知覚の差異」、『日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究—外国人を対象とする日本語教育における音声教育の方策に関する研究—』平成4年度文部省重点領域研究成果報告書、113-130

—— (1999)「日本語教科書のイントロダクションにおける音声項目の扱い方」、『総合文化研究所紀要』16、17-25

—— (2000)「音声の母語別の研究はどう役に立つか」『日本語教育方法研究会誌』7-2、28-29

佐藤友則 (2001)「音声評価基準の習得過程に関する考察」、『第2言語としての日本語の習得研究』4、凡人社、134-149

白川博之 (1992)「終助詞「よ」の機能」『日本語教育』77、36-48

轟木靖子 (1993)「東京語の「よ」の音調と機能について」、『日本語音声における韻律的特徴の実態とその教育に関する総合的研究—外国人を対象とする日本語教育における音声教育の方策に関する研究—』平成4年度文部省重点領域研究成果報告書、41-56

福岡昌子 (1998)「イントネーションから表現意図を識別する能力の習得研究—中国4方言話者を対象に自然・合成音声を使って—」、『日本語教育』96、日本語教育学会、37-48

水野潔 (2000)『今すぐ話せるタイ語[入門編]』株式会社ナガセ.

参考資料1 日本語版アンケート用紙の一部

アンケート

私は、北海道大学大学院国際広報メディア研究科修士課程の学生のプロムジット ニョームワーニッチです。将来、日本語学習者が理解しやすい効果的な音声教育の指導法を開発するために、日本語教育における音声の研究をしています。そこで、皆様にアンケートに協力していただきたいと思います。なお、個人的な内容、個人データは一切公表しません。また、研究以外の目的で使用することもしません。

名前_____性別 男 ・ 女 年齢_____歳

職業_____出身地_____

連絡先_____

電話番号_____

E-mail Address _____

会話を聞いて、質問に答えている人の気持ちを表している方いずれかに○を付けてください。
分からない場合は「わからない」と書き込んでください。

1. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
2. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
3. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
4. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
5. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
6. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
7. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
8. A. 快く賛成している。
B. 断っている。
()
9. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()
10. A. 不愉快だと感じている。
B. 不愉快だとは感じていない。
()

11. A. 快く賛成している。

B. 断っている。

()

12. A. 不愉快だと感じている。

B. 不愉快だとは感じていない。

()

参考資料 2 タイ語版アンケート用紙の一部

แบบสอบถาม

ชื่อ _____ นามสกุล _____ เพศ _____ หญิง ชาย

อายุ _____ ปี อาชีพ _____

หากเป็นนักศึกษา คณะ _____ ปี _____ ชั้นปี _____

ระยะเวลาที่อยู่ประเทศไทยจนถึงปัจจุบัน _____

ระยะเวลาในการเรียนภาษาญี่ปุ่น _____

สถานที่ที่เรียนภาษาญี่ปุ่น _____

เคยเรียนวิชาการออกเสียงภาษาญี่ปุ่นหรือไม่ เคย ไม่เคย

คอร์สภาษาญี่ปุ่นที่เคยเรียน _____

ที่อยู่ _____

เบอร์โทรศัพท์ _____

E-mail Address _____

รายละเอียดส่วนบุคคลที่ได้รับจากการตอบแบบสอบถามชุดนี้ จะนำไปใช้ในงานวิจัยเกี่ยวกับการสอนภาษาญี่ปุ่น
ด้านการออกเสียงเท่านั้น ไม่มีการนำไปเผยแพร่แต่อย่างใด

จงฟังบทสนทนาแล้วเลือกคำตอบที่คิดว่าตรงกับความคิดของผู้ตอบคำถามในบทสนทนาแต่ละข้อ หากไม่ทราบจริงๆ ให้เขียนว่า “ไม่ทราบ” ลงในช่องว่างในกระดาษคำตอบ

๑. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๒. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๓. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๔. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๕. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๖. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๗. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๘. ก ตอบรับอย่างยินดี
ข ตอบปฏิเสธ
()

๙. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๑๐. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()

๑๑. ก ตอบรับอย่างยินดี
ข ตอบปฏิเสธ
()
๑๒. ก รู้สึกไม่พอใจ
ข ไม่ได้รู้สึกไม่พอใจ
()